

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 異なる物理を繋ぐデータ駆動型の連成数理モデルの創出

2. 研究代表者： 阿部 圭晃（東北大学 流体科学研究所 准教授）

3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題では、低次元化モデルを用いたデータ駆動型の数理モデルを創出し、高度な数値解析と実験計測の融合により、複雑連成現象の新たな学理と工学的な応用を目指している。フェーズ1では、本来の目的であるダイナミクスに関する成果はこれからのようだが、計画通りの確実な成果を出しており、学术论文も多く出版していること、企業との協働が多いことは高く評価できる。フェーズ2では、具体的な挑戦的計画が立てられているが、一方で応用面としては例示として挙げているものの方が当初計画していた航空機系よりも実施しやすいテーマとなっており、当初の目標が達成できるよう積極的にチャレンジすることに期待する。

以上